

Volume.038



徳山大学校友会誌

とくだい

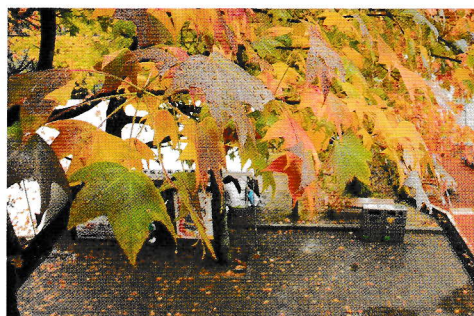
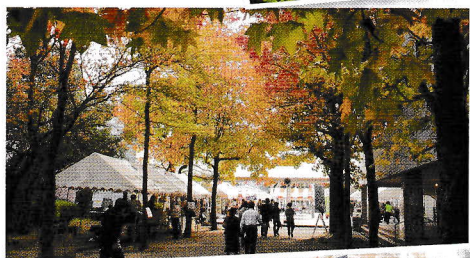
発行所
徳山大学校友会

〒745-8566
山口県周南市学園台 徳山大学内
TEL&FAX 0834 (28) 7454

発行日
平成26年3月20日

発行責任者 國廣 憲

編集責任者 野村 哲也



徳山大学キャンパスの四季

大学の桜開花の時期には、学内のみならず地域の方も年々楽しみにされるようになり、多くの方が桜を愛でるため訪れます。徳山夏祭りでは徳山駅周辺を元気よくパレード。大学祭では紅葉の真っ盛りの中、趣向を凝らしていろいろな模擬店が軒を並べ、学生たちも楽しい時間を過ごしていました。

(撮影：中村道陽)

平成二十五年度 評議員会開催される



平成25年度評議員会が6月22日周南市ホテルサンルート徳山で開催されました。まず國廣会長より、大学の学生数や財務状況や、また今後の大学の方向性についての提言などを行っていることなどについて挨拶の中で述べられました。この後、議案では徳山大学への特別奨学生に対する寄付活動について、校友会分として二百二十七万四千円の寄付があつたことについて報告がありました。（詳細は7頁）このあと、昨年度及び新年度の事業・予算について審議され承認されました。役員改選においては、新年度より新たに事務局長として中村道陽氏（11期卒）が就任したことに報告がありました。最後に岡野学長より、大学の近況について報告をいただきました。このあと、恒例の懇談会に移り、徳山大学池高理事長をはじめ大学の教職員の方も交えて旧交を温めました。会の締めくくりとして、廣瀬副会長による万歳三唱を全員で高らかに唱和しました。

関東支部総会 同窓会開催される



平成25年11月16日関東支部の総会並びに同窓会が、東京銀座スターホールにて開催されました。総会では役員の紹介と事業計画が説明されて承認を受けました。同窓会は約30名の卒業生が参加、冒頭に来賓としてご出席の岡野学長より大学の状況について卒業生からの質問を交えながら丁寧にお話をいただきました。その後、参加された卒業生一人ずつ近況を軽妙なトークでスピーチされて、有意義な時間が過ぎました。

校友会ホームページ リニューアル

校友会のホームページを平成26年度よりリニューアル致します。見やすさは勿論、在学生の就職支援にも役立つような工夫を取り入れる予定です。本会誌ともども、ご覧いただければと思います。ご期待ください。

東日本復興支援 チャリティコンサート開催

平成25年3月9日東日本復興支援チャリティのための「フォークコンサート元気です2013」が周南市市民館大ホールで開催され約450人の聴衆がフォークのソングや唱歌などの名曲を堪能しました。このコンサートは東日本大震災の被災者に対する募金活動の趣旨で徳山大学と共催で開催され、今年で3回目となりました。コンサートの冒頭では学生会執行部の竹村大希君（福祉情報3年）より、コンサートの趣旨について述べ、犠牲者に対して来場者全員で黙とうを捧げました。メインボーカルは卒業生で歌手の永谷青空さん（宇部市在住）バックは徳山大学非常勤講師の山根由紀夫さんが特別編成されたクロスリバーの演奏でした。今回のコンサートでは12万8千133円の募金が集まり、徳山大学池高理事長、校友会井上幹事長が周南市社会福祉協議会に寄付金として届けました。



＜特別寄稿＞

地域に輝く大学の実現に向けて

徳山大学 学長・岡野啓介

現代は、社会の仕組み・価値観が大きく変容する時代といわれています。この現代を生き抜き、社会に貢献していくために重要になるのが、諸々の事態に遭遇して主体的に考え、問題を発見し解決していく能力です。それは従来型の、知識の伝達・注入を中心とする、受動的な教育の場では育成できません。ディスカッションやディベートをとおして学生と教員が相互に刺激を与え合い、学生諸君自らが能動的に考え解決への道を見いだしていく学修（アクティブラーニング）への転換が必要とされています（「教育の質の転換」中央教育審議会答申2012）。

また文部科学省は、大学の「機能分化」を促す施策を進めています。世界的な研究教育の拠点としての大学、高度専門職業人を養成する大学、総合的な教養教育を目的とする大学、といったように「大学の個性や特色を明確化する」戦略をたて、補助金配分などをテコに、それに向けた各大学の動きを促進しています。その機能分化の一選択肢として、特に、地方の中小大学にとって重要と考えられるのが、COC（Center Of Community：「地（知）の拠点」）機能の強化です。地域貢献に対する高い意識を備え、地域再生の核となる機能の強化を視野に入れた教育研究改革を推し進める、新しい大学の在り方が問われているのです。

一方、公設民営方式で設置され、産学官の連携を推進しながら、地域社会に貢献する役割を果たすべく努力を続けてきた徳山大学にとって、**その個性は、地域社会との協働・共生という点に集約されます**。2011年、創立40周年を迎えた本学は、10年後の創立50周年を期とする『**地域に輝く大学**』の確立をめざし、新たな教育改革の一步を踏み出しました。そして現在、前述した二つの大学改革をめぐる流れに鑑み、学生諸君に主体的な学びの場を提供する「教育の質の転換」へ向けた改革を、「地域課題の発見と解決」をテーマとするアクティブラーニング、具体的には問題解決型学習（PBL：Problem Based Learning）、の全学的導入、によって実現すべくカリキュラム改革に着手しています。

具体的には、①「地域理解を促進し地域への愛着を育む」ための（地域志向系）科目群を、地域の自治体や企業また有識者の方々との連携を中心に、強化する。② PBL 実施にあたって必要となる、基礎教養・学力および EQ をはじめとする基本的人間力（PBL リテラシー）の涵養を、教養ゼミ（1 年次、全学必修）の教科内容として徹底する。③ それらの能力をベースに実施される「地域課題の発見と解決」をテーマとする PBL を、新設科目「地域ゼミ」（2 年次、今後必修化を検討）で体験させ、専門ゼミ（3・4 年次）においてその体験を一層深化させていく。以上の 3 つの柱からなる、「地域理解」から「地域課題の発見と解決をテーマとする PBL 体験」までの一連の流れを、**4年間の継続的な学びとして体系化**していくことによって、「教育の質の転換」を実現していくことを狙っています。

その一環として、本年度から導入する新規科目「地域ゼミ」では、教員と学生諸君が「周南地域に存在する身近な課題を見出し」「現場へ出て調査・分析し」「得られた結果に基づいて解決策を考え」「協働してそれを実行」するとともに、「得た結論を地域に向けて発信していく」一連の活動をおこないます。これらの PBL をとおして、学生諸君が元気になり、同時に地域の活性化にもつなげていきたいというのが、その狙いです。

地域志向化へ向けたカリキュラムの改革の着実な遂行を、地域の自治体をはじめ企業や住民の皆さんまで、広く社会の方々に実感・共有していただける状況を実現することによって、「徳山大学における学修への信頼感」を高めていく。そのことによって、真の意味での「地域に輝く徳山大学」を実現できると考えています。

懐かしのキャンパス

昭和46年(1971年)開設した徳山大学は当初「学校法人中央学院大学徳山大学」としてスタートしました。昭和49年(1974年)1月に出光興産株式会社出光佐三店主が来学、中央学院よりの分離独立の話が出た際に、「高村市長がつくられた徳山大学の充実なら、私にできる援助はいたします」との話から2億6千2百万円の巨額寄付を受けることとなり、「学校法人徳山教育財団徳山大学」として分離独立を果たしました。翌年昭和50年度学生募集の大学案内には市長からの力強いメッセージが寄せられています。

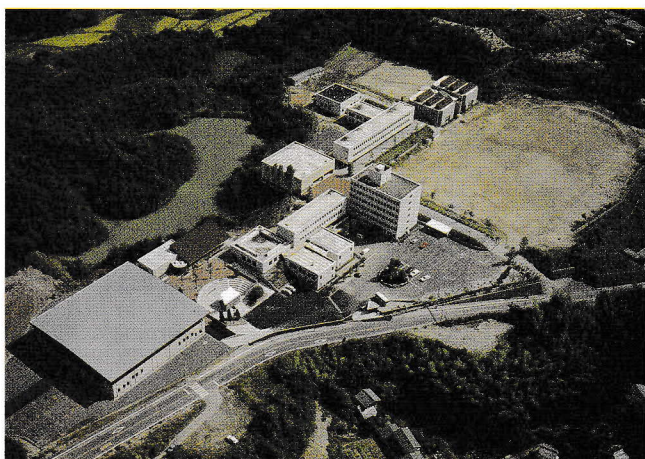


写真上) 昭和50年度学生募集パンフレット表紙より

左上) 同パンフレット内

高村坂彦徳山市長メッセージの頁

左下) 昭和49年1月徳山大学に来学された出光佐三氏と高村市長



昭和55年(1980年)ごろの航空写真。裏側の沼は現在一部を残して埋め立てられており、福祉施設が建っています。またその周辺の田畑も住宅地となっています。



＜徳山大学学生寮古写真＞

昭和50年代初頭は学生の下宿やアパートも不足しており、学生寮が多く存在しました。写真上左から「光風寮」(ラグビー部合宿所として現存)中、城ヶ丘寮、楠寮(以上2寮は廃止)です。当時の家賃が4.5畳食事なしで5000円食事つきで2万円という状況でした。その後、多くのアパートが大学の周りに建ち、多くのエピソードと思い出を残して、寮という形態は次第に姿を消していきました。



「日の講義を終って家路をまっすぐ」

昭和51年(1976年)ごろの大学正門(現在は左手に図書館・右手に11号館が建つ)



夜の行軍32km・鹿野→徳山

昭和51年ごろ夜の行軍?と称して、夜通しで鹿野から徳山市内まで歩き通すという行事がありました。その後、交通量の増加に伴い危険であることから中止となりました。「夜のピクニック」という高校生の夜行遠足の物語を映画化された長澤雅彦監督が現在本学の教授でおられるのもご縁を感じます。

活躍する卒業生SP

サウンドデザイナー 河村知之 さん（東京在住・17期卒業）

河村さんは大学卒業後、東京に本社のある大手ゲーム会社に入社し、ゲームソフトの音楽制作や音響制作を担当されました。中でもレースゲーム関係は30本以上のゲームソフトに関わり、退社後フリーになられてからは他の大手ゲームメーカーでもレースゲームサウンドを担当し、これまで70本以上のゲームソフトに携わってこられました。レース音再現のためには、実際の自動車のメカニズムを熟知していることや、コンピュータでプログラムした音を制御することなど技術的にも非常に高度なことが求められます。このためサウンドデザイナーとしてレース音のシステム設計から収録、サウンドデザインにまで一貫して携わっているのは河村さんを含めて世界でも10人程度だろうとのこと。また河村さんはこれまで国内で発売されたレースゲームソフトの半数近いタイトルに関わっておられ、日本での第一人者でもあります。

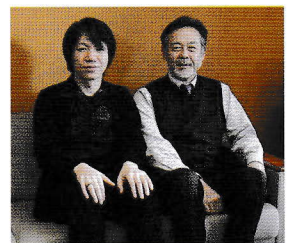
最近の活動として本田技研工業より1989年のF1日本グランプリ予選でアイルトン・セナが樹立した世界最速ラップの走行データを用い、彼の走りを音と光でよみがえらせるというプロジェクトの依頼がありサウンドデザイナーとして、エンジンやアクセルの動きを解析し、実際のMP4/5マシンから録音したさまざまな回転数の音色と組み合わせることで、当時のエンジン音を再現されました。この作品がメディア界で最も権威のあると言われる第17回文化庁メディア芸術祭エンターテインメント部門において大賞を受賞しました。（作品名 Sound of Honda / Ayrton Senna 1989）この映像はYouTubeで既に300万回以上のアクセスがあり、セナの母国ブラジルからも絶賛の声が上り、日本に対する感謝の言葉が添えられていることに、河村さんは心から嬉しかったと話されました。実は、河村さんは駆けだしの20年前にレースゲームのプロデュースで会社に来ていたセナに直接会う機会があり、握手をされたそうです。あれから20年がたち、今回のプロジェクトの話があった時に運命と感じたと話され、セナから「しっかり頼むぞ」と言われているようで、恩返しをしなければならないという強い気持ちで臨まれたそうです。受賞にあたり、「ビジネスとして受けたものが、芸術として評価されて本当に嬉しく思います」と述べられました。この作品では合計5つの賞を受賞されており、世界的な広告賞である「Automobile Advertising of the Year Awards」で1位も受賞されています。

河村さんの、今後のますますのご活躍をお祈りします。



インタビュー余話

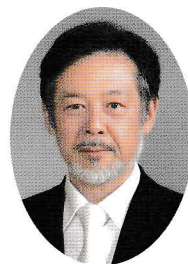
今回、河村さんは帰省中のところを、
学長表敬訪問で大学に訪ねて来られました。大きな仕事をされる河村さんですが、大変物静かで謙虚な人柄に感銘を受けました。



<学長室にて>

とくだいインフォメーション

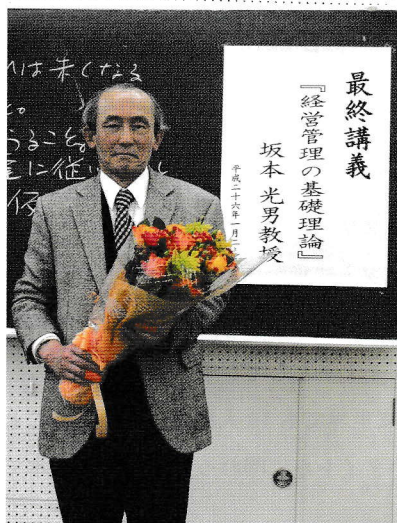
岡野啓介学長再任される



平成26年2月19日の理事会におきまして岡野啓介学長の再任が決定致しました。(任期平成26年4月1日～平成30年3月31日)

坂本光男先生 定年退職を迎えられる

坂本光男教授が平成26年3月末日をもちまして定年退職を迎えられました。坂本先生は昭和62年から徳山大学教鞭をとってこられました。1月29日には「経営管理の基礎理論」というタイトルで最終講義が行われました。先生の今後のますますのご活躍とご健勝を心からお祈り申し上げます。



徳山大学4名の 職員の方が定年退職

徳山大学は教職員と学生の垣根のない大学として、事務職員の方も、通常の業務以外にクラブ活動や、学生相談などにおいて、深く関わってこられました。卒業生の方もいろいろと思ひ出されることと思います。このたび、大学創立より40年近くお世話になりました4人の職員の方が今年度末をもちまして定年を迎えられましたので、ご本人のコメントを添えてご紹介します。

秋本辰巳さん(2期本学卒)

大学入職 昭和52年

「光陰矢のごとし」あつという間に過ぎたような気がします。いろいろなことを教職員と学生で手作りで行っていたことが印象に残っています。



河村敦夫さん

大学入職 昭和51年

いろいろありますが、私が25歳になり職員として慣れてきた頃の5期生のみなさんとお付き合いが、楽しかったことを思い出します。



藤岡正史さん(2期本学卒)

大学入職 昭和51年

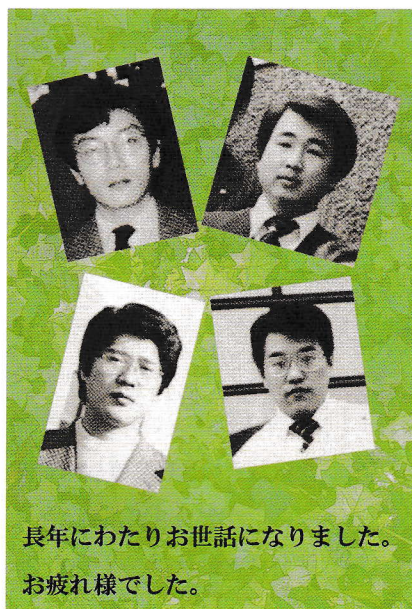
昭和52年初の全日本大学野球選手権大会で駒澤大学と対戦して、応援席で「電線音頭」を披露して相手応援団を圧倒したことや、ほか数多です。



三嶋隆史さん(2期本学卒)

大学入職 昭和54年

女子バスケットボール部の立ち上げで、徳山女子短期大学の少ないメンバーからはじめて、がむしゃらに努力を続けた10年間で特に印象に残っています。



長年にわたりお世話になりました。
お疲れ様でした。

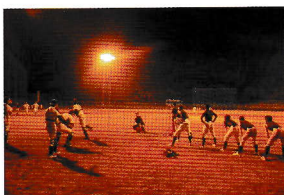
長澤雅彦先生（経済学部教授）

映画監督で本学教員の長澤雅彦教授の映画最新作『遠くでずっとそばにいる』（倉科カナ主演）が完成し、6月12日学内で記者発表が行われました。長澤教授はこれまで、『ソウル』（長瀬智也主演）や『13階段』（山崎務・反町隆史）『夜のピクニック』（多部未華子）などの映画作品を監督、2010年から本学教授として映像を制作実習などの映像の企画制作に関する授業を担当されています。

今回の作品は秋田県で夏休みの期間を利用して撮影されました。会見で長澤教授は「映像から伝わる言葉を感じていただきたい」と話されました。



～徳山大学に新たな風が吹き込まれます～

**飯田宏行さん（硬式野球部監督・写真右）**

飯田さんは本学の卒業生です。硬式野球部では投手として活躍。全国大会出場は勿論、3年時の秋季リーグで山口大学を相手に完全試合も達成。大学卒業後、米球団とマイナー契約の後、広島東洋カープに入団、2年半前から本学の臨時コーチを務め、今年4月より新監督に就任されました。主将の田中亮祐君（写真左・経済3年）は、新監督をお迎えして、「年齢的にも近く、何でも相談できる監督さんです。何とんでもリーグ優勝を果たしたいです」と意気揚々と話してくれました。



徳山大学地域貢献活動として開催される本学客員教授、中井勝先生指導による吹奏楽クリニックが12月24日、地域の中高校生を中心に約百五十名が参加し中井先生より丁寧に指導を受けました。毎回多くの受講生出版わい今後も開催が予定されています。

吹奏楽クリニックに多くの地域の方が参加

ポプラ祭 今年も盛大に開催
今年もポプラ祭りが賑やかに開催されました。模擬店ではゼミの先生と協力して学生が愉しそうに運営する姿が多く見受けられました。また恒例の外国人による弁論大会では、学内外からの参加者による感銘深いスピーチが展開され、地域からの来場者も魅了されました。

特別奨学生制度に伴う大学への寄付とその制度について

徳山大学40周年記念事業として創立50周年に向けて、地域の発展に寄与し、リーダーとなる人材の育成を目指す取り組みとして「特別奨学生制度」を設立しました。これに伴い、校友会でも平成23年4月から平成25年3月にかけて募金活動の協力を呼びかけ会員各位より二百二十七万四千円の寄付のご協力をいただきました。全体では総額三千二百八十三万二千円の寄付がありました。

この寄付金を原資として、本年度徳山大学では特別奨学生の募集が行われました。この奨学制度の概要は次のとおりです。

【アドバンスト】学納金の全額免除

【スタンダード】学納金の半額免除

【ベーシック】入学金の免除

◎その他の制度上の特色

入学後特別クラスを編成して、キャリア教育と就職指導を徹底して行う

◎選考方法

大学入試センター試験受験者の5教科・5科目で選考されます。

次年度もこの制度は継続されますので、是非卒業生のご子息の方や、お知り合いの方に紹介をいただければと思います。

お便り紹介 一校友会にお寄せいただいたお便りをご紹介しますー



1期 下松市在住 武居 政修

いつも会誌楽しく読んでいます。私は1期生ですが、徳山大学＝ポプラの木で有名でした。ポプラ祭というのがありましたが今はどうですか？写真とても懐かしかったです。

色々な所で卒業生が活躍されてとてもうれしいです。私も歳も還暦」が過ぎました。早いものです。これから人生がんばります。徳大バンザイ！！

ー編集部より いつも温かいお言葉ありがとうございます。ポプラ祭は今も学生の皆さんがいろんな趣向を凝らして頑張っています。これからも母校をお見守りください。

7期 周南市在住 熊谷 宏

会誌とくだい楽しみです！！

ー編集部より ありがとうございます。これからも頑張ります！

14期 広島県在住 角川 光生

懐かしのキャンパスの写真を見てとてもなつかしく、また感激しました。当時の思い出は私の宝物です。

ー編集部より 「思い出は私の宝物」 ぐっとくる言葉ですね。これからも心をこめて作成していこうと思います。

31期 神戸市在住 寺川 準

当時のことを思い出し妻や子供に話します。

ー編集部より 家族の話題に“とくだい”あったかくていいですね。

ーどうもありがとうございましたー

<プレゼントコーナー>～山口県名産品～

①



②



③



- ① 旭酒造 獺祭おためしセット・・・3名様
今や日本を代表する山口発のお酒です。
- ② 杉本利兵衛本店蒲鉾セット・・・3名様
宮内庁御用の白銀を含めた蒲鉾のセットです。
- ③ 朝日屋手作りホームパーティセット・・・3名様
世界最高峰の食肉加工品コンテストで受賞の、下松市の朝日屋ハム・ウインナー・ジャーキーのセットです。

プレゼント希望の方

希望商品、氏名、年齢、住所、電話番号、会誌へのご意見・ご感想をお書き添えの上、

郵送の場合

〒745-8566 山口県周南市学園台 徳山大学校友会

Eメール応募の場合

kouyukai@tokuyama-u.ac.jp

ご送付ください。

※ご意見・ご感想は、誌上・HP上で掲載されることがありますので、予めご了承ください。また、個人情報については、事務連絡のみに使用させていただきます。

編集後記・お礼

卒業生も還暦を迎えられますが、校友会もまもなく40周年です。会員皆様のみすますのご健勝をと、ご活躍を、心よりお祈り申し上げます。

編集スタッフ 企画広報部部长 野村哲也 (20期)

中村道陽 (11期) 藤田美恵 (事務局)

協力 徳山大学